

## 41. 採卵鶏にみられた卵管間膜平滑筋腫

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者	吉田, 玲奈 渋谷, 正一 上川, 静 長谷部, 俊 藤井, 恵一 菊地, 傑 斉藤, 守弘
巻/号	47巻1号
掲載ページ	p. 36
発行年月	2011年5月

### 41. 採卵鶏にみられた卵管間膜平滑筋腫 (Leiomyoma of mesotubarium ovarica of chicken)

キーワード：鶏，卵管間膜平滑筋腫



写真 1. 内臓等の肉眼写真。卵管間膜中央部に6×6×5cm 大の腫瘍が認められた。

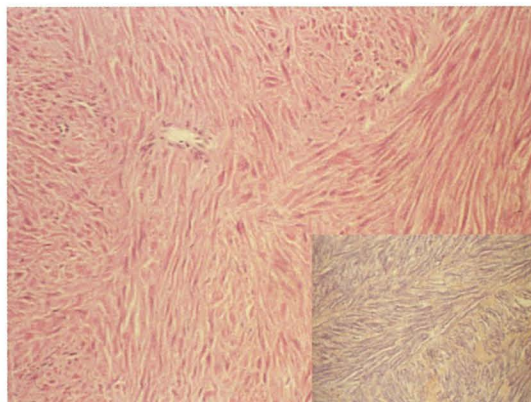


写真 2. 紡錘形を呈する腫瘍細胞。索状，うず巻き状，交錯状に配列していた。HE 染色。  
挿入図：横紋はみられなかった。PTAH 染色。

**動物：**採卵鶏，雌，ポリスブラウン，512日齢  
**発生状況：**2009年7月18日に埼玉県内の大規模食鳥処理場で処理された5,869羽中の1羽に発生した。  
**肉眼所見：**卵管間膜中央部に6×6×5cm大，乳白色で表面に血管様構造のみられる硬固感のある腫瘍が認められた(写真1)。腫瘍表面は平滑で光沢感を有していた。腫瘍の断面は小指頭大の腫瘍が複数融合して観察された。それぞれの腫瘍は結合組織で区画され，乳白色でタマネギ様構造を呈していた。  
**組織所見：**腫瘍細胞は紡錘形を呈し，索状，うず巻き状，交錯状に配列していた(写真2)。核のクロマチンは比較的粗で，核仁を1～数個有していた。核の異型性は見られなかった。AZAN染色で赤色に，PTAH染色で紫色に染まる筋線維が観察された。免疫組織化学的検査を行ったところ，マウス抗アクチン抗体(INVITROGEN社)，およびモノクローナル抗デスミン(D33)マウス抗体(ダクジャパン株式会社)で陽性反応が認められた。  
**解説：**腫瘍細胞は筋線維と思われる紡錘形を呈しており，PTAH染色において横紋はみられなかったことから，平滑筋線維であると考えられた。また細胞異型や核分裂像はほとんど観察されず，腫瘍の発生部位が卵管間

膜中央部であったことから，本症例を卵管間膜平滑筋腫であると診断した。平滑筋腫は，非感染性腫瘍の101羽中6羽(5.9%)に発生が認められたと報告されている<sup>1)</sup>。一方，埼玉県においては，3,263羽中804羽(24.6%)に発生が認められた。卵管間膜平滑筋腫は採卵成績のよいものに高発する傾向があるといわれている<sup>1)</sup>。今回の成績と前田<sup>1)</sup>との差異はこのことが要因のひとつであると考えられる。また，平滑筋腫の発生部位については，卵管間膜の中央部に好発しやすく，次いで卵管壁，時には腸管の筋層，腸管，筋肉などにみられると報告されている<sup>2)</sup>。埼玉県内の大規模食鳥処理場においても成書と同様に，平滑筋腫は卵管間膜の中央部に好発し，時に卵管壁，腸間膜，腸管に観察され，中には，腹腔臓器漿膜に多発するものもあった。平滑筋腫は時に腹腔臓器に多発するが，その組織所見は良性腫瘍であると報告されている<sup>2)</sup>。著者らの成績も同様で，紡錘形の腫瘍細胞が索状，交錯状に配列し，細胞異型や核分裂像はほとんど観察されなかった。

#### 文 献

- 1) 鶏病研究会編：鳥の病気，第6版，150-153(2008)
- 2) 堀内貞治編：鶏病診断，213(1982)

著者：吉田玲奈 (Reina Yoshida)，渋谷正一 (Shoichi Shibuya)，上川 静 (Shizuka Kamikawa)，長谷部俊 (Shun Hasebe)，藤井恵一 (Keiichi Fujii)，菊地 傑 (Suguru Kikuchi)，齊藤守弘 (Morihiro Saito)，埼玉県食肉衛生検査センター，〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合 5-18-24